立志

金沢時代

トクヨは、体操について深く研究したいと考えるようになった。しかし、トクヨの周りには教科書も無ければ教師もいなかった。ところが、キリスト教宣教師のカナダ人ミス・モルガンと出会い、この人が体操専門学校出身者であったので、トクヨはスウェーデン体操とドイツ体操とをミックスした体操を学ぶことができた。

高知時代

1907年(明治40年)高知県師範学校に転勤した。ここで、トクヨは体操教諭と舎監を兼ねていた。

女高師時代

1911年(明治44年)4月、東京女子高等師範学校助教授となる。女高師の助教授への抜擢という、一地方の体操教師としては異例の幸運をつかみ、スウェーデン体操の女王、井口あくりの後任として、時代の期待を一身に背負うこととなった。大正元年、トクヨは「体操科研究ノ為　満二箇年間　英国ヘ留学ヲ命ズ」という文部省の命令を受けた。この留学については体操界の権威で女高師教授でもあった永井道明の尽力があった。

展示品リスト

・弟真寿に宛てた手紙(大正5年、女高師教授時代) 当時の縁談について、心情を切々と述べている
・弟真寿に宛てた手紙(大正5年、女高師教授時代) 弟に対する期待、縁談、この先の覚悟等につき女らしい心情が見られる

ミス・フランシス・ケイト・モルガン
(1861—1946)
カナダメソジスト派の宣教師。金沢でトクヨに体操の手ほどきをした

金沢時代、教え子とともに

高知師範学校教諭時代 (26歳位)

永井道明(1868—1950)
トクヨをオスターバーグのもとへ留学させた女高師体操教授

女高師助教授時代
(当時の体操服、30歳位)